

24
コマ

社債を発行する側になりました

社債って、なんだっけか？

社債は借金の借用証書のようなもので、それが世に出回っています。

このコマでは、社債を発行している（お金を借りている）側の処理を学習します。

9コマ でやった『満期保有目的債券』の発行者側になったケースです。

今度はチュー忠商事が社債を発行します。

5年満期の社債の償還までの流れ

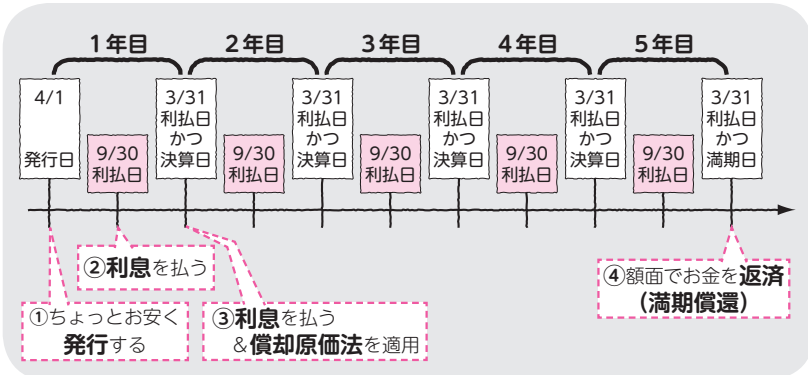
「満期保有目的債券は苦手じゃないのに、社債は苦手…」という人多いんです。



同じ話ですよ

チュー忠商事 社債
5年満期(×1年4月1日発行)
利払日は年2回(9/30、3/31)
額面価額 100,000円、年利2%

よく出題されるのが
このようなケースです。



仕訳をそれぞれ見ていきましょう。

1

4/1 発行時の仕訳



現 金 97,000 (資 産)	社 債 97,000 (負 債)
---------------------	---------------------

(資産)⊕	(負債)⊖
	(純資産)
(費用)	(収益)

返す金額は 100,000 円でも、発行するときにはちょっとお安く発行します。差額の 3,000 円は、事実上の利息です。

チュー忠商事 社債 ¥100,000			

利札(クーポン)が
下にくっついてる



そうしないと
引き受けて
もらえないからネ...

2

9/30 利払日の仕訳



社債利息 1,000 (費用)	現 金 1,000 (資 産)
--------------------	--------------------

(資産)⊖	(負債)
	(純資産)
(費用)⊕	(収益)

利息を払う側的时候は『社債利息』(費用)をつかいます。
額面の ¥ 100,000 にもとづいて計算します。

$$\text{¥ } 100,000 \times 2\% \times \frac{6 \text{ ヵ月}}{12 \text{ ヵ月}} = \text{¥ } 1,000$$

(社債利息 = 額面金額 × 利率 × $\frac{\text{利用月数}}{12 \text{ ヵ月}}$)

3

3/31 利払日であり、かつ決算日でもある。

この日の仕訳がポイントです。

クーポン利息の支払いは、日々の営業取引として行います。

利払日としての仕訳



社債利息 1,000 (費用)	現 金 1,000 (資 産)
--------------------	--------------------

(資産)⊖	(負債)
	(純資産)
(費用)⊕	(収益)

さらに、決算整理仕訳として償却原価法を適用します。

『満期保有目的債券』と同じ要領です。

決算日としての仕訳



社債利息 600 (費用)	社 債 600 (負 債)
------------------	------------------

(資産)	(負債)⊕
	(純資産)
(費用)⊕	(収益)

$$(\text{¥ } 100,000 - \text{¥ } 97,000) \times \frac{1 \text{ 年}}{5 \text{ 年}} = \text{¥ } 600$$

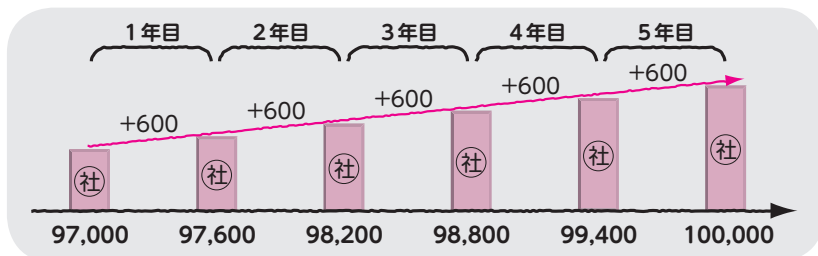


3/31のタイムテーブル



このように、1日のなかでも営業取引を行っている時間帯と、決算手続をしている時間帯があると考えます。

『満期保有目的債券』のときと同様に社債の発行者側でも、ちょっとお安く発行した『社債』は時間の経過に応じて徐々に額面額に近づけていきます。



4 5年目の3/31満期日の仕訳

満期日は利払日でもあるので、最後のクーポン利息を払います。

社債利息 1,000/現金 1,000

さらに、償却原価法を適用して社債の帳簿価額を額面金額(100,000円)に一致させます。

社債利息 600/社債 600

そして最後に、社債を償還(返済)します。



社債 100,000	現金 100,000
(負債)	(資産)

(資産) ⊖	(負債) ⊖
	(純資産)
(費用)	(収益)

チキチキ勘定科目

(資産)	(負債)
	(純資産)
(費用)	(収益)

社債を発行したら
「社債」

社債の発行者が
支払う利息が
「社債利息」

公社債の利息を受け
取ったときは『有価証
券利息』(収益)でした。



設例 (24) - I

次の一連の取引について、仕訳しなさい。なお、決算日は年1回、3月31日である。

取引1 ×1年4月1日、社債総額 ¥3,000,000 (償還期間5年、年利率2%、利払日は9月、3月の末日) を額面 ¥100につき ¥98 で発行し、払込金額は当座預金とした。

取引2 ×2年3月31日、2回目の利払日につき、社債利息を当座預金より支払う。また、決算日につき、社債額面と払込金額との差額に償却原価法を適用する。



$$\begin{aligned} & ¥3,000,000 \times \frac{① ¥98}{② ¥100} = ¥2,940,000 \\ & ¥3,000,000 \times 2\% \times \frac{6 \text{ ヵ月}}{12 \text{ ヵ月}} = ¥30,000 \\ & (¥3,000,000 - ¥2,940,000) \div 5 \text{ 年} = ¥12,000 \end{aligned}$$

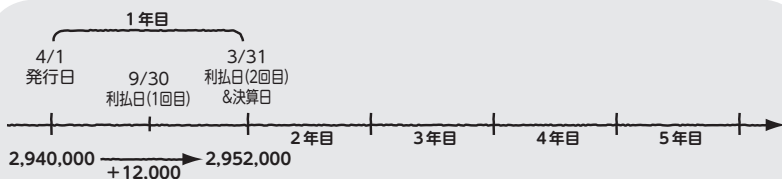
取引1

当座預金	2,940,000	社債	2,940,000
(資産)		(負債)	

取引2

社債利息	30,000	当座預金	30,000
(費用)		(資産)	
社債利息	12,000	社債	12,000
(費用)		(負債)	

社債の問題は資料を整理するために、必ずタイムテーブルをかくクセをつけましょう。

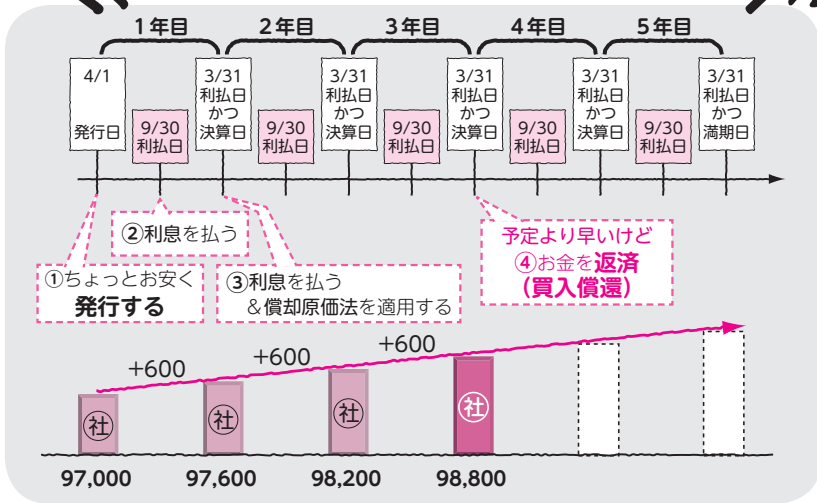


途中で買い入れることもある

社債は、世に出回っています。

世に出回っているのですから、それを自分で買い戻してしまえば満期まで待たずに償還（返済）できることになります。

これを、かいいいしょうかん 買入償還といえます。



④のタイミングで買入償還する場合も、満期償還のときと同様の手順です。

クーポン利息を支払い、償却原価法を適用し、その後買入償還します。

社債利息 1,000 / 現金 1,000

社債利息 600 / 社債 600



社債 98,800
(負債)

現金 98,000
(資産)

社債償還益 800
(収益)

(資産) ⊖	(負債) ⊖
	(純資産)
(費用) ⊕	(収益) ⊕

満期償還との1番の違いは、買い入れるときの金額が帳簿価額より高かったり安かったりする点です。安く買い入れられれば『社債償還益』、高く買い入れれば『社債償還損』が出ます。

チキチキ勘定科目

(資産)	(負債)
	(純資産)
(費用)	(収益)

社債を帳簿価額より
高く買入償還したら
「社債償還損」

社債を帳簿価額より
安く買入償還できたら
「社債償還益」

設例 (24)-2 過去問題 第134回 第1問 3より改題

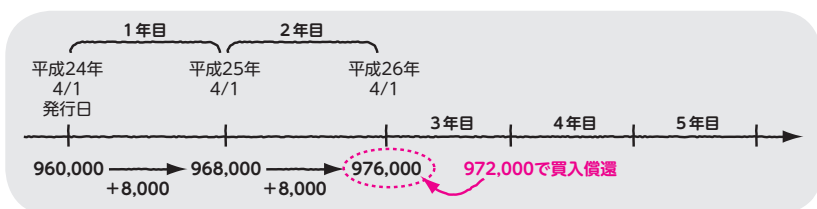
取引 平成26年度期首に、額面総額 ¥1,000,000 の社債を ¥100 につき ¥97.20 で全額買入償還し、代金は小切手を振り出して支払った。この社債は平成24年4月1日に額面 ¥100 につき ¥96.00 で発行（償還期間：5年）したものであり、償却原価法（定額法）を適用している。なお、決算日は3月31日である。



$$\begin{aligned}
 & ¥1,000,000 \times \frac{¥96}{¥100} = ¥960,000 \\
 & (¥1,000,000 - ¥960,000) \div 5 \text{年} = ¥8,000 \\
 & ¥960,000 + ¥8,000 + ¥8,000 = ¥976,000 \\
 & ¥1,000,000 \times \frac{¥97.20}{¥100} = ¥972,000 \\
 & ¥976,000 - ¥972,000 = ¥4,000
 \end{aligned}$$

社 債 976,000 (負 債)	当 座 預 金 972,000 (資 産)
	社 債 償 還 益 4,000 (収 益)

タイムテーブルを書いてしっかり埋めていけば、ミスなく解けます。なお、「平成26年度」といったら、「平成26年4/1～平成27年3/31」を指します。平成26年度期首では、前年度末に償却原価法が適用されています。



社債発行費はこの論点

14の復習です。

繰延資産には5種類あり、そのうちの1つに『社債発行費』がありました。

社債の発行にかかった費用（社債の印刷費や広告費）は、既費消・既支出であつても、社債で資金調達している期間にわたり

その効果が持続していると考えられます。

そこで、繰延資産として計上することが認められています。

これは、社債を発行したときに計上するものなので、

このコマで学習した内容とペアで出題されます。



効果が持続している状態のイメージ図

未払社債利息（経過勘定）

3級の復習です。

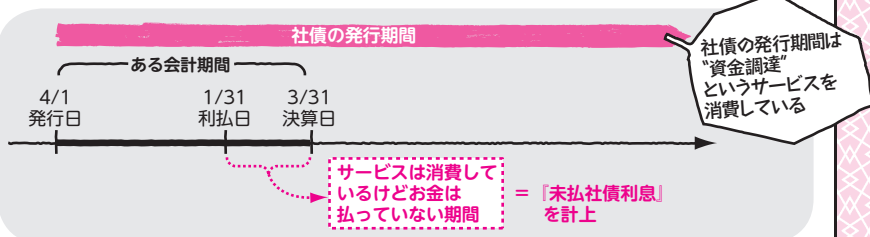
経過勘定の1つに、「未払費用」がありました。

サービスを消費しているのに、その分のお金をまだ払っていない場合には、後でお金を支払わなければならない義務が発生してします。

そこで、決算で忘れずにその分も計上しておこうよ、というのが「未払費用」でした。

さて、社債利息は時間の経過とともに徐々に発生するコストです。

継続してサービスを消費しているからです。



社債の利払日と決算日が異なる場合には、決算整理仕訳で

『未払社債利息』を計上する必要があります。



この問題ができれば
社債はバッチリですよ
気合入れていきましょう

設例 (24) -3

次に示した資料より、決算整理後残高試算表(一部)を完成させなさい。
なお、会計期間は平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日までとする。

[資料 I]

決算整理前残高試算表(一部)

借 方	勘 定 科 目	貸 方
54,000	社 債 発 行 費	
	社 債	3,886,600
36,000	社 債 利 息	

[資料 II]

- 社債は平成 25 年 1 月 1 日に次の条件で発行されたものである。この社債は定額法による償却原価法により評価替えを行う。社債発行費はこの社債の発行にさいして生じたものであり、繰延資産として計上している。社債の発行から償還期限までの期間にわたり定額法により償却されている。

額面総額：¥ 4,000,000 償還期間：8 年

発行価額：額面 ¥ 100 につき ¥ 96.64

利率：年 1.2% 利払日：6 月末と 12 月末の年 2 回

- 社債利息の当期の未払分を計上する。

(答案用紙)

決算整理後残高試算表(一部)

借 方	勘 定 科 目	貸 方
	社 債 発 行 費	
	未 払 社 債 利 息	
	社 債	
	社 債 利 息	
	社 債 発 行 費 償 却	



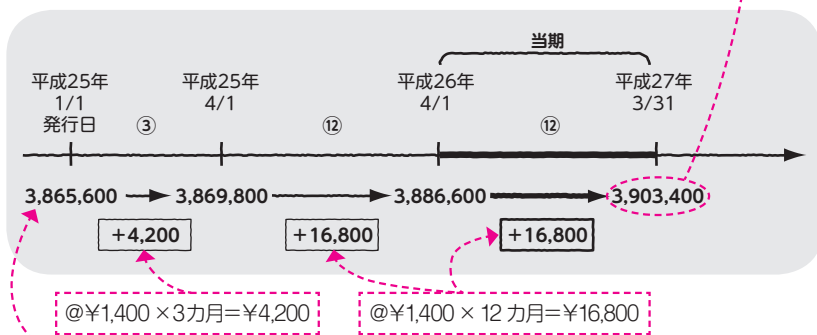
解答

決算整理後残高試算表(一部)

借方	勘定科目	貸方
46,000	社債発行費	
	未払社債利息	12,000
	社債	3,903,400
64,800	社債利息	
8,000	社債発行費償却	

解説

社債の問題は、しっかり下書きにタイムテーブルを書くのが第1歩です。



(償却原価法について)

社債の発行価額： $¥ 4,000,000 \times \frac{¥ 96.64}{¥ 100} = ¥ 3,865,600$

$(¥ 4,000,000 - ¥ 3,865,600) \times \frac{1年}{8年} \times \frac{1カ月}{12カ月} = @ ¥ 1,400$

償却原価法の1カ月あたりの適用額は、

@ ¥ 1,400 となります。

12カ月分では

$¥ 1,400 \times 12カ月 = ¥ 16,800$

となります。



社債利息 16,800 (費用)	社債 16,800 (負債)
---------------------	-------------------

(未払社債利息について)

$$\begin{aligned} \text{社債のクーポン利息(1カ月分)} &: \text{¥} 4,000,000 \times 1.2\% \times \frac{1 \text{ カ月}}{12 \text{ カ月}} \\ &= @ \text{¥} 4,000 \end{aligned}$$

$$\text{決算整理前 T/B} : @ \text{¥} 4,000 \times \frac{9 \text{ カ月}}{4/1 \sim 12/31} = \text{¥} 36,000$$

決算では当期の未払分を計上します。

$$@ \text{¥} 4,000 \times \frac{3 \text{ カ月}}{1/1 \sim 3/31} = \text{¥} 12,000$$

社債利息 (費用)	12,000	未払社債利息 (負債)	12,000
--------------	--------	----------------	--------

(社債発行費について)

繰延資産にした『社債発行費』は、社債の利用期間（8年×12カ月＝96カ月）にわたって償却されます。当期首時点で、その内の15カ月がすでに経過しています（下書き参照）。

つまり、決算整理前 T/B の ¥ 54,000 は、残りの 81 カ月分（96カ月－15カ月）ということになるので、社債発行費の当期償却額は次のように計算されます。

$$\text{¥} 54,000 \times \frac{12 \text{ カ月(当期)}}{81 \text{ カ月(残りの期間)}} = \text{¥} 8,000$$

未償却残高

社債発行費償却 (費用)	8,000	社債発行費 (資産)	8,000
-----------------	-------	---------------	-------

社債利息	社債発行費	社債
36,000	54,000	3,886,600
16,800	8,000	16,800
12,000		
借方残高	借方残高	貸方残高
64,800	46,000	3,903,400

まとめ
20分授業で
おさえる内容

- ・『社債』は、『満期保有目的債券』の発行者側の話。
- ・『社債』は、償却原価法の適用、クーポン利息とそれについての経過勘定、繰延資産…と、いろんな論点が目白押しである。タイムテーブルの下書きで資料を整理して、落ち着いて解くべし。

